

ポリウレタン樹脂などを織編物にコーティングした合成皮革は、天然皮革に比べて安価・軽い・柔軟性に富むなどの特性がある反面、経時劣化が避けられない素材です。今回は、合成皮革製品の典型的な事故事例である剥離について紹介します。

監修／クリーニング総合研究所

素材
特性
に注意

衣類の状態

クリーニングしたダウンジャケットを長期保管した後、出してみたところ、袖口やポケット口、その他装飾に使用されている革部分に剥がれていると持ち込まれたもの。

組成表示には「革部分 山羊革」と表示されている。

原因

装飾に使用されていたのは山羊革ではなく、ポリウレタン樹脂を

用いた合成皮革であったため、長期保管中に空気中の水分などにより、ポリウレタン樹脂が経時劣化し、剥離したものと。

事故の防止対策

合成皮革などに使用されるポリウレタン樹脂の経時的な劣化は避けることができないため、抜本的な防止策はない。

ポリウレタン樹脂は空気中の水分による加水分解などにより、通常2～3年で劣化することが明らかになっており、クリーニング事



各所に合成皮革を使用したダウンジャケット

故賠償基準では合成皮革(ポリウレタン樹脂)の外衣の平均使用年数を3年としている。

合成皮革製品全般に
対しての注意事項

合成皮革は、織物や編物の基布にポリウレタン樹脂などをコーティング(塗布)したものです。合成皮革の多くは基布とスポンジ層と皮膜の3層構造になっている。剥離は、スポンジ層と被膜の両方の部分に生じる。

合成皮革製品全般に対しては、次のような配慮が求められる。

- 取扱表示などを参考に、洗える製品かどうかを確認する(水洗い、ドライクリーニングのいずれも不可を表示している製品がある)

- 汚れが付着しやすく、かつ着用摩擦を受けやすい生地を折り返し部分、袖口、裾回り、衿回り、脇下などに異常がないかを確認する(汚れが合成皮革の劣化を促進し、着用摩擦で剥離、脱落等が生じていることがある)

- べたつきやひび割れなどの兆候があるものは剥離等の生じる可能性が高いためクリーニングできないうえを伝え、お断りすることが望ましい

- 製品を製造してから2年以上経過している場合には、購入の時期に関係なく樹脂の劣化が行っており、クリーニング処理で剥離等が生じる可能性があることを伝える

- JIS L 0217の取扱いは、絵表示が使われている製品は、2016年(平成28年)以前の製造と判断してよい



合成皮革のポリウレタン樹脂が劣化、剥離し、基布が露出している



●「衣料管理情報」は全ク連ホームページからPDFをダウンロードいただけます。
全ク連 HP <https://www.zenkuren.or.jp> 「お知らせ」→「衣料管理情報」